

2021年3月期 中間決算説明会 質疑応答（要旨）

【説明者】

関西みらいフィナンシャルグループ 代表取締役兼社長執行役員 菅 哲哉

関西みらいフィナンシャルグループ 代表取締役兼執行役員（グループ戦略部担当） 西山 和宏

関西みらいフィナンシャルグループ 執行役員（財務部担当） 丸山 克明

【質疑応答】

Q1 今回、2020年度通期目標を変更していないが、下期に減損などを考えているのか。

A1 現時点で減損等を考えているものはない。通期目標を変えていないのは、与信費用がまだ不透明であるため、保守的に当初計画通りの目標としている。

Q2 完全子会社化となることを社内でもどのように説明したのか。

A2 社内に対しては、今回の完全子会社化で「変わること」と「変わらないこと」があると説明している。「変わらないこと」は、関西のお客さまとともに歩む銀行として、地域に貢献していくということ。「変わること」はこれまでやってきたことをさらにスピードアップさせなければならないということ。特に当社の課題である資本の充実と生産性の向上について、今回の完全子会社化を契機に更にブラッシュアップさせていく。

Q3 店舗の集約や人員コントロールについて、これまでの計画にプラスアルファして実行したいとの説明があったが、そのためにはどういった要素や条件が必要と考えるか。

A3 チャネル改革や人員コントロールに限るわけではないが、統合を成功させるための一番のベースは、私も含めた社員一人ひとりの成長だと思っている。やるべきことはたくさんあるが、それをやり切れるかは我々自身の問題であり、全てにおいてもう一段高いところで運営していけるかにかかっていると考える。

Q4 法人関連フィー収益が下期に大きく伸びる計画となっているが、内容を教えてほしい。

A4 通期目標は一昨年と比較しても、大きな目標ではないと考えている。内容は私募債、M&A、ビジネスマッチング等であるが、これらについては、まだまだ我々自身が使いきれていない所であり、伸びしろは大きい。目標達成には、りそなどの連携の中で我々自身が成長しながら新たな価値をお客さまに提供することが重要となる。

Q5 自己資本比率はどのくらいの水準を目指すのか。

A5 現時点では、まずは中期経営計画でお示ししている「8%程度」をしっかりと達成することが大事だと考えているが、今後、完全子会社化を受けて目標を見直しするかどうかについて協議をしていく。

以上